



人類はひとつ 世界中に友情の橋をかけよう

MANKIND IS ONE- Build Bridges of Friendship Throughout the World



会長 中江 亮 幹事 佐藤元伸 副会長・クラブ奉仕 川村徳男 職業奉仕 嶺岸光吉 社会奉仕 山口篤之助 国際奉仕 黒谷正夫 青少年奉仕 津田平

出席報告：会員 74 名 出席 58 名 出席率 78.38 % 前回出席率 81.43 % 修正出席 64 名 確定出席率 90.43 %

## 特集 テーマ 少年非行問題への提言

### 基調講演 少年非行の現状とその対策

講師 鶴岡市立第3中学校校長  
田川地区中学校校長

加藤達也氏



現在、特に中学校が世の中で大変厳しく批判されている様であります。その現実がどうなのかと言う事を一つ、もう一つは非行を起している子どもの要因というもの、果して有るのか無いのか。有るとすればどうい所に問題があるのか。こんな

点をお話し申し上げてみたいと思います。最後に現在学校ではどんな事に力を入れているのか、お話を申し上げてみたい。

鶴岡だけの問題ではなしに、全国的な一つの風潮ではないかと思えますけれども、例の大学紛争に始まった学校の問題が、その後高等学校問題に移ってまいり、現在は専ら中学校非行暴力やら様々の問題を抱えてるのが現実です。私共の田川管内の中学校21校の中で、問題が無い学校は無いのではないかと思います。只その問題が爆発的に現われてくるという学校は大変少ない。只、鶴岡市内のNo.1スクールと言われる学校は、多かれ少なかれ問題を抱えています。私の学校を例に取りましても所謂ツッパリという生徒がいます。昨年度も一昨年度もおりましたし、現在もそれらしい生徒がぼつぼつ見えるのであります。只そういう子どもが必ずしも問題を起すかと言うと、そうでもないのであります。例を上げますと、昨年ですと私の生徒の中にも違反の服装をして学校に来る、例のダブダブのズボンをはいて、背中の中の下が割れている学生服を着て、中には色物の派手なシャツを着てくる自己顕示の表われであり、学校中を闊歩して歩いている。べつに学校を毀したり、

あるいはだれかをぶん殴ったりはしないのです。そういう子ども達がついにはグループを作り始めるのです。昨年の例を見ましても、私の方の生徒と四中のツッパリの生徒が大変仲良くなり、ツッパリの流れが出来る。これの一つ断ち切らないと大変問題が大袈裟になってまいります。昨年度もそういう例がありまして、両方の学校で連携しながら指導したのですが、そういうのが一つあります。もう一つの問題は、後で岡崎課長さんから細かなデータが出ると思いますが、万引が横行しているのであります。この問題はここしばらくの間数年間続いております。減る傾向が若干あったのかなと安心しておりましたけれども、やはり減ってはおりません。特定の子どもを考えて、あの子は万引するのかなあとは考えられないのであります。どこにでもそういう要素があるのではないかと思います。万引の特長は窮めて遊び型であります。スリルを味わうとか、だれかがやったのが良くいったので僕もやってみよう、窮めて単純なので、物に困っていると、物を買いたくともお金がなくて買えないとか、迫られて物を取るといのではないのであります。もう一つは大変複数化している。1人ぼっちで出掛け、つい万引をしたという子どももおりますけれども、大部分はグループで出かける傾向が見えてきている。それから中には計画的ではないかなと思われる悪質な者も見えてきている。私共がその子どもを呼んで聞いてみますと、殆んどの子が一過性と言いますか、一辺きりで指導されれば立ち直るんですけども、前に経験しておいて見つからないでそのままになっている子は何回も繰り返す傾向があります。

その他、問題になる行動では、暴力と言う事があるわけですが、最近の子どもは喧嘩が下手で

庄内空港の建設を推進しましょう

喧嘩の仕方をほとんど知らないと思います。私共が子どもの頃は縦の社会があったわけです。自分の先輩・後輩と一緒に遊んだんですけれども、今の子ども達は横系列の社会で同年令の子しか遊ばない。そんなわけで喧嘩の仕方も順調に学んでいない。ですから喧嘩の限度を知らない。相手が泣いたらやめるとか、謝ったらやめるとか、そういう事を知りませんから、とことんまでやるものですから、怪我する者も出てまいるわけです。

さて、私共の場合こう言った子ども達を見ながらどこにどんな要因があるのであろうかと色々捜してみるわけですが、1人1人皆んな違うようであります。要素とって累計化するのが大変むずかしい。したがって対応の仕方も一概にはいかない。それでもなお捜してみようと、色々幼ない頃からの状況を捜してみますと、万引を別にしまして、つっぱったり乱暴な行動をとったりする子供の場合、お手許のプリントの中に家庭内暴力校あるいは登校拒否非行という事例について、その母親・父親の性格、養育態度についてどんな状況であろうかと調べたのがありましたので持って参りました。これで見ますと、性格的には母親も父親もやさしかったり、まじめであったりと言う家庭が多いわけですね。そうしますと大変意外なわけですね。決してでたらめな家庭でもない様に思われます。ところが、主たる養育態度と言う所を見ますと、大変干渉がましい、あるいは過保護であり、あるいは支配的である。そして最も問題になるのは放任である。こういう所に長が表われてきますし、実際に問題を起した子どもさんと色々話をしますと、幼児期に実は根差した問題があるように思うのです。3才頃迄の親との接触が大変問題のようであります。良い発達年齢段階に十分に経験をしてこないという場合の問題が大きいようであります。私の学校の生徒でも、そういう子どもが3人程おりますが、殆んど4才頃の第1反抗期を経過してこない。親に聞いてみますと、4才児頃迄は大変良い子であった。5才6才頃も大変良い子であった。良い子と言うのは親がさかし安いと言う逆の面があるわけですが、そういう子どもが多い。そういう子どもがだんだん成長してまいりますと、中学校に入ってきて第2反抗期を迎える時期になりますと、その幼児期の第1反抗期と一緒に表われて来るといふ大変困った現象が起ってくる。ですからやる事の中に大人の知識も入ってきています。けれども幼児期そのままの態度が表われてくる大変な長があります。これが非常に困った現象なのです。それから家庭的に言いますと、やはり家庭の養育態度はもちろん、生活そのものに問題があるようであります。最も困るのは家庭の崩壊している場合、それ

から夫婦の仲が良くない場合必ず問題を起します。特に登校拒否のような場合ですと、親の離婚・再婚というような事が相当影響が大きいようでありますし、殆ど情緒的不安な事が原因しているわけですが、暴力を振ったり、あるいはつっぱったり、実際は1人1人呼んで話しますと大変良くわかって理解するのですけれども、集団を作るともう駄目になる例が多いのです。そんな訳ですので、先生方に良く話しをするんですけれども、問題を起した時注意するよりも普段の何でもない時に一つ声を掛けて下さいと。つまりは愛情に飢えてるような傾向があるのであります。ですから先生方に声を掛けられたり、廻りの大人に声を掛けられたりすると、大変その子にとっては嬉しいのです。そういう経験に乏しいために色々な逆作用で悪い事をしてかす傾向が強いように思います。私共はこれにどう対処するかと色々苦心を致しておりますけれども、なかなか決め手となるものは御座居ません。もちろん万引したとか、あるいは乱暴したとかは発見しだい話し合いをします。叱る前にまず話し合いをします。その後親を呼んで話し合いをします。その話し合いの中で悪いことだと言うことはわかっている様ですが、それを押えることが出来ない所に悪さが現われてくる。自制心が大変乏しいように思います。これも戦後の景気の良い時代からずっと物が豊富になりまして、小使い銭も大体2千円以上ももらっている例が多いようですが、そんな風にお金も割合自由になると、そんな中で育ってきているものですから、どうしても自分の思いどおりにならないと、すぐに爆発してしまう。癇癪を起したり、そんな子どもが増えているような感じであります。学校で対策を練る。廻りの社会で対策を練る。といってもむずかしいのではないかと思います。昨年から鶴岡市の場合ですが、中学校区を対象にしまして、小学校の先生も、3中の場合ですと第1小、第2小、黄金小、斎小と4つの小学校が中学校区にあるわけですが、その小学校・中学校の全職員が一堂に会してざっくばらんに話し合うと言うことで、自分の学校の状況を話し合いました。これは他の学区でも話し合いをして戴きました。その中でも、話し合いをしてみますと、小学校でも非常に言葉が乱暴になってきた。応答の仕方も大変先生に対する言葉ではないような言葉で応答する子どもが相当数増えているというような報告がある。今お話し申し上げましたように、金銭の使い方が大変粗末である。そんな色々な報告をし合って、中学校の場合は万引が何件あって、グループ化しているのが何件あったぞと言われ、見ればその子は小学校の時も問題があったのだと言う報告会をやって、それじゃ今後どういう風に対応して行こ

うかと言うので話し合ったと、そういう会が有ります。私の学校の場合ですと、問題行動緊急対策事業と言うので、色々なステッカーみたいな物を作ったり、補導便りを作ったりして、各家庭とつながりを持つように努力致しました。特にそれらの文書の配布は子どもの手を通さないで、直接母の会の役員、補導部の部長と言うような方々に声をかけながら、各家庭に配布をして戴くと、そんな方策も取ってまいりました。それから第3中の場合は、鶴岡警察署の健全育成モデル地区という指定を頂戴しまして、中学校区を12分割しまして、その各分割しましたブロック1名から2名の推進委員をお願いしまして、直接子ども達の様子を見て戴くと言う様な運動も致しております。又、職員も含めまして補導部の方にもお願いして大型店舗あるいは問題のしょっちゅう起きやすい場所、例えば遊園地とかお宮とか、そういった所の巡回もしばしば行っております。しかしこれも仲々効果があるのかないのかと言う事で議論があるのですが、子どもの方がいち早く知って、そこには近づかない逆効果もあるようです。仲々生徒指導というのはむずかしいようであります。しかし私共は教育の専門家の集団が学校でありますので、決してどの子も見捨ててはいけなと、たとえどんな問題を起そうがその子を見捨ててはいけな。そして学校職員全員が同じ方向を向いて、同じような

指導をしていかなければ、やっぱり子どもが見てちゃんと弱点を突いて来る。そんな事で私共一生懸命頑張っているつもりですけれども、先程お話ししましたように、まだ万引のような問題は絶えておりません。私共はこれに負けないで根強く、なお指導してまいりたいと思います。学校だけで解決しようとしても、これは無理ではないかと、廻りの社会全体がそういった所に注目して戴いて、是非声を掛けてほしいのであります。昔ですと同じ町に住んでいる大人達が子どもに皆んな声を掛けて下さったものですけれども、最近は皆さんがお忙しいし、なお新しい建物を建てられて移られたの言う事で、馴染みが薄いものですから、まだ声を掛ける所迄いかないのです。けれども、どんな小さな事でも注意をすると言うよりも、むしろ親しみ深く声を掛けて戴ければきっと非行防止になるのではないかと、こんな風に感じている所です。どの子どもも、私の学校に1,111名の生徒がいますけれども、1,111名すべてが問題の子どもであります。問題の子どもというのは問題を持っている子どもです。悪い事をすると言うのではありません。只、それがどんなきっかけで、どこで悪い問題が発生するか、私共は未然に防止したいとこんな風に思う次第です。

大変まとまりのない話しを申し上げまして、大変失礼しました。

## 昭和57年度 鶴岡市の児童・生徒の問題行動

### 一 学校事故（児童・生徒）報告から一

鶴岡市教育委員会

#### 1. 月別発生状況 昭和57.4～58.3末報告分

(数字：人数)

区 分	校種	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	前年
交 通 事 故	小	2	2	2	1	3	1	1				1	1	14	9
	中				3		1			1	1			6	3
負 傷 ・ 骨 折	小	1	3	1	1							3		9	9
	中		1				1			1				3	4
ろ う 火	小													0	4
	中				3									3	4
窃 盗 ・ 万 引	小	3	5	1		5	4		4		1	2	3	28	28
	中		1	3	7	4	16	11	8			10	2	62	62
恐 かつ ・ 傷 害 力 暴	小						1							1	0
	中			1	2		1	2		2			2	10	3
家 無 断 出 泊	小													0	0
	中			1	1			1			1	1		5	1
そ の 他	小													0	2
	中	8		1						4		3		16	0

#### 2. 傾 向

##### 1. 相変わらず多い遊び型非行……万引

- ・動機は単純だが、悪質化している。
- ・みつからないと、どんどんエスカレートしている。

##### 2. 暴力型非行の増加

- ・落書き ⇨ 破壊 ⇨ 暴力 初期指導が大切

##### 3. 性行為や薬物乱用などの好奇心型非行が発生している

- ・児童・生徒自身の心身が荒廃していくこと

〈第1表〉 母親の性格特性の順位 ☆家庭内暴力と登校拒否に共通 △家庭内暴力と非行に共通

家庭内暴力事例 (40例)				登校拒否事例 (30例)				非行事例 (20例)			
順位	性格特性	人数	%	順位	性格特性	人数	%	順位	性格特性	人数	%
1	やさしい ☆△	17	43.6	1	まじめ ☆	16	53.3	1	まじめ △	9	52.9
2	自己中心的☆△	14	35.9	2	内気 ☆	10	33.3	2	頑固	7	41.2
3	内気 ☆	12	30.8	3	やさしい ☆	9	30.0	3	自己中心的 △	4	23.5
3	まじめ ☆△	12	30.8	4	自己中心的 ☆	8	26.7	3	やさしい △	4	23.5
5	感情が激しい	7	17.9	5	無責任	5	16.7	5	あっさり	3	17.6

〈第2表〉 父親の性格特性の順位 ☆家庭内暴力と登校拒否に共通 △家庭内暴力と非行に共通

家庭内暴力事例 (40例)				登校拒否事例 (30例)				非行事例 (20例)			
順位	性格特性	人数	%	順位	性格特性	人数	%	順位	性格特性	人数	%
1	まじめ ☆△	16	40.0	1	まじめ ☆	11	36.7	1	まじめ △	11	55.0
2	勝気 ☆	12	30.0	2	勝気 ☆	7	23.3	2	内気	6	30.0
3	不安定 △	11	27.5	2	やさしい ☆	7	23.3	3	抑制的	5	25.0
4	しつこい	10	25.0	2	抑制的	7	23.3	3	不安定 △	5	25.0
5	やさしい ☆△	9	22.5	5	内気	6	20.0	5	やさしい △	4	20.0

〈第3表〉 母親の主たる養育態度 ☆家庭内暴力と登校拒否に共通 △家庭内暴力と非行に共通

家庭内暴力事例 (40例)				登校拒否事例 (30例)				非行事例 (20例)			
順位	養育態度	人数	%	順位	養育態度	人数	%	順位	養育態度	人数	%
1	干渉 ☆	12	30.0	1	干渉 ☆	8	26.7	1	放任 △	7	35.0
1	過保護 ☆△	12	30.0	1	過保護 ☆	8	26.7	2	過保護 △	5	25.0
3	支配 ☆△	8	20.0	3	支配 ☆	6	20.0	3	支配 △	4	20.0
4	放任 △	6	15.0	4	偏りが無い	3	10.0	4	干渉	3	15.0
5	服従	1	2.5	5	放任	2	6.7	5	拒否	1	5.0
5	拒否	1	2.5	5	拒否	2	6.7				

〈第4表〉 父親の養育態度 ☆家庭内暴力と登校拒否に共通 △家庭内暴力と非行に共通

家庭内暴力事例 (40例)				登校拒否事例 (30例)				非行事例 (20例)			
順位	養育態度	人数	%	順位	養育態度	人数	%	順位	養育態度	人数	%
1	放任 ☆△	22	56.4	1	放任 ☆	11	36.7	1	放任 △	8	47.1
2	過保護	8	20.0	2	偏りが無い	6	20.0	2	支配	3	17.6
3	拒否	3	7.7	3	支配	5	16.7	3	干渉	2	11.8

## 生育歴上の出来事

〈第5表〉 挫折体験

( )は%

問題別 挫折体験	家庭内暴力 事例	登校拒否事 例	非行事例
あった	28( 70.0)	19( 63.3)	8( 40.0)
なかった	12( 30.0)	11( 36.7)	12( 60.0)
計	40(100.0)	30(100.0)	20(100.0)

〈第6表〉 被暴力体験

( )は%

問題別 被暴力体験	家庭内暴力 事例	登校拒否事 例	非行事例
あった	10( 25.0)	1( 3.3)	1( 5.0)
なかった	30( 75.0)	29( 96.7)	19( 95.0)
計	40(100.0)	30(100.0)	20(100.0)

## 基調講演 少年非行の現状とその対策

講師

鶴岡市教育委員会 岡崎 克次氏  
学校教育課長



先程ロータリーソングを聞きまして、こういうような事が地域全体に広がれば、今のこの苦慮してます青少年の健全育成も一気に解決するのではなからうかと言う事を考えさせられた者で御座居ます。更にロータリークラブで青少年問題を取り上げて戴いて論議して戴く事についても感謝申し上げます。

今、教育委員会と申しまして、子どもを預かる機関におきましては、すべてそうでございますけれども、教育をするというエネルギーよりも、こういう子どもをどうして立ち直らせるかという事にエネルギーを使っているのが現状のようにも見受けられる訳でございます。実は数字の事で申し訳ございませんけれども、校長会がございまして、昨年1年間の鶴岡市の生徒の問題行動につきまして報告致しましたそのものズバリの資料が、先程申し上げました資料でございます。そこにございます事故の報告は色々種類がございまして、特に非行にかかわりのあるものにつきまして書いてございます。それでも、何と申しまして苦慮するのは窃盗・万引と言うことであります。相変わらず非行型遊び型非行と申しましょうか、罪の意識の認識が低いために発生するものが大部分なのでございます。しかし、これも何人かの子どもの報告を受けて分析してみると、非常に動機が単純なものから、どんどん悪質化していくと最後には着た物を販売するような場面迄

進んでまいります。2年程前でありましたが、グループでそういう事をやりまして、なんとそれがリンゴ箱で6つ程になった例がございます。大変これは私共驚きまして、なぜ・どこで・どうなったのかという事を、2ヶ月に亘って1人1人の生徒の調査を進めたのでございますが、まったく今申し上げたような事で、どんどんエスカレートしていく。そういう意味からすると、市内の商店の皆様からは最初の段階でなんとかこの非行を切り取ってしまうというような、そういう事をして戴かなければならないのじゃないかという事で、商店の方とも連携をとりながら進めている訳であります。ろう火というところから窃盗・万引・恐かつ・傷害・暴力・家出・無断外泊・その他合計を取りましたら、小学校では29名であります。それから中学校では96名。これはいったいどの位の割合になるかと調べますと、小学校の場合は鶴岡市の場合9,041名、中学校の場合4,538名ですので、この生徒で割ってみますと、小学生全生徒に対する割合は0.3%、中学生は2.1%、いわゆる100人に対して2人ちょっとがなんらかの非行を行ったという事です。警察の資料やら、全国的なものに比較しましても、大体こういう傾向にございます。こんな事で、私共とにかくなんとかして非行「ゼロ」にしたいという事で、先程も市内小中学校に対して非行ゼロを目覚せという通達があった訳ですけれども、懸命にこの事に向って努力をしている状況にございます。万引・窃盗・その他につきましては、そんな事ではありますが、最近鶴岡で校内暴力と言われる対教師に対する暴力行為がございました。これは、まことに単純な動機でありまして、私共その後学校につきましては何回も指導訪問をおこなっ



た訳ですが、本当に何故そうなるかという事がわからない。ほんとうにちょっとしたきっかけが教師と子どものそういう問題になってしまう。その後こういう事については鎮静化方向にありますけれども、最近私共警戒していますのは、生徒と生徒の間のそういう問題になってきているのではないかという事を心配している訳です。生徒間の恐かつ・ゆすり・そういうものの芽が伸びてきているという事で、これも見つけ次第徹底的に指導が必要ではないか。この暴力型非行の傾向というのは、私共ずっとさぐって基に行きますと、最初は壁に落書きをするあたりから始まっている。そしてそれが物を毀す。例えばトイレに行ってドアを足でけとばしてくる。それが手あたりしだいその辺をけとばして歩くというような状況になる。それがさらに物を持って暴力を働くと、こういうケースでございますので、とにかく落書きをした、この落書きはだれだろうと、そのあたりからしないといけないのではないだろうかと思えます。そんなふうな事で初期指導がもっとも大切なのではないかと、そんなふう考えているという事です。そこにあります10件という中に2名の対教師暴力があります。それから家出・無断外泊というのわりとケースが少ないのですけれども、特に女の中学生の家出が多いのであります。無断外泊にとどまらないで、性的なものにつながってしまうというケースが殆どでありまして、その子どものふらふらしている所を聞いてみますと、どこのだれかわからないけれども、とにかく車に乗せられて楽しんで来たと言うような事で終わってしまうような事です。又、人数が5と書いてありますが、5の内3位は実は同じ子の繰り返しでありまして、生徒の全く特種な子どもと言わざるを得ません。それから、その他の所に16件とありますが、前年はゼロでありました。ところが今年に入って16件と言うのでありますが、普通使っていない別荘のような所に入りこんで、その辺にあった籠詰を持ち出すやら、あるいはテレビを持って行って見るやらというような事で、これは8と書いて例えば4月に8と書いてある所の数字8人で共同でやったところの事で、件数は多くないのであります。シンナー、バイクの無免許運転等も含めまして、こういう種類のもが多くなってきているのであります。それが生徒の状況であります。今申し上げたのが数字的な事ですが、私共考えております事は、いくらこの時代が経済的に恵まれた時代であっても、子どもが健やかに育たない社会というのは、決して望ましい

社会ではないのではないかと、そんな事から、いくつかの対策を考えている訳であります。1つは、なんと申しましても学校と教師のふれあいでもあります。私共も中学の教師をしながら子どもとの幾つかの出会いがあった訳ですが、よく話しの出る話しに、非行が出てきたのはいつからだろうという話しが、私共聞かれたり話題になるのでありますが、そうしますと、多分学校の先生が宿直がなくなってからであろうという見方が大方を占めているようでもあります。なぜだろうという事を考えてみますと、その問題を持つ子どもに対しては、先生が宿直の場合、夜泊るから遊びに来なさい、一緒に風呂に入るぞというような事で、非常に親密な付き合いの出来た時代があった。私もそういう経験がございます。学校の管理というものが機械化されまして、あるいは教師の労働の問題から廃止されまして出来なくなったという事から、この上滑りの、いわゆる本音の言い合わない、只その授業で「お前そんな事では学校に行けないぞ」とか、あるいは別の言い方をしますと、おどして教育をする悪い言葉ですが、そんな状態では、「どこどこの学校に落ちるぞ」とか、そんなような事で子どもと付き合いができる、どうしても不信感が生れてくる。あったかさが足りない。そんな事での生徒と教師、いわゆる人間関係ではないのか。これをなんとか快復する方法を見い出さなければならぬというので、今私共そういう意味で人間らしい教師に戻れとの指導をしている訳です。先程、校長会長さんから話がありました通り、私共もこれといって決め手はないのですけれども、しかし、今申し上げた事につきましても、学校のいわゆる体勢というのも十分ではないのではないかと、幾つかの事私共聞きますけれども、やはり今私共が地域社会で大切なのは、いわゆる我が子は誰ともかかわりがないと言うのではなくして行かなければならないのではないかと。個人の親子という関係、さらに社会の子どもとしての見方をしないといけないのではないかと。このような事が盛んに言われております。もともと子どもの成長というのは、やはり心配をさせながら育てていくというのは今も昔も同じではないか。はらはらしながら、あるいは今のあのような似たような親子の関係は昔もあったのではないかと。私共学生時代上級生からよく部屋に呼ばれて、随分殴られたような経験がありますが、そういうような事が今も昔もやはりあったように記憶ある訳ですが、そういう事になった時に、子どものそういう状況を大人がどう判断して、先程ここにありますように子

どもの行動について社会の皆んなが声を掛けてやる。先般、私も町を歩いていましたら、高校1年位のスカートの長い女の子がタバコを買っていました。自動販売機からです。私は立ち止まりまして、ずっと様子を見ていたのですが、その子が胡散くさそうに私を見るわけなのですが、貴方はそのタバコをどこで吸いますか、貴方が吸うのですか、だれが吸うのですかと聞いたら、黙って答えないので、さらにうるさく、貴方がどこかで吸うのでしたらやめなさいと注意をしたら、そしたらにらみ返され、女の子からにらみ返されて、あまり良い気持ちではありませんでしたけれども、人間の葛藤みたいなものがあったと思うわけなんですけれども、帰りにぼそと言った言葉の中に「ありがとう」と、こういうふうに言ったのです。このありがとうという言葉が何を意味するのか、まだ中味を何を意味するのか考えていないのですけれども、注意をしてくれてありがとうと、自分なりに判断したのですけれども、こういうふうな今、子どもを取りまく社会というのはそういうふうな事を行動に移る沢山の材料があるので、そういう事で社会全体が子どもを包んでいく、そういう体勢でなければならないという事も何日でも考えさせられていまして、あらゆる機会に会合に出まして、訴えている状況もございます。これは校長会で報告された事ですけれども、自由という事と、いわゆる子どもの自主性という事と、子どもの我儘という事のあたりがどうもばらばらな状況にあるのではないかと。先般ある大人が、2年生の子どもが屋敷に入ってきて、その木を棒で叩いたり、花をむしったり、色々やったので注意をした。その父さんの所に困るとい話をしましたら、家では子どもにはよその家に行って、木の芽を摘んだり、悪戯をしたりするのは悪い事だとは教えてないので、しばらく注意をしないでくれと、こう言われた話があります。これも随分おかしな話だと私共は考えたわけです。いずれにしても、良い悪いと言うのはやっぱりきちんとあるわけですので、そういう家庭教育の基本というものも、今後家庭の中に入れないう状況にありますけれども、しっかりしていかなければならないのじゃないか、そんな事を行政でどれだけ出来るのかという、非常に遠いのでありますけれども、1つ1つ出来る事から実践して行かなければならない。生徒指導機会ある毎に沢山の問題が出され、私共苦慮していますし、さらに今後小さな事から実践しなければならぬと思っています。

今後とも宜しくお願いします。

## 会長報告

中江亮君

- 御承知の通り、会員の風間慶三さんが、去る4月7日午後9時27分亡くなられました。お葬式は金屋興業株式会社と鶴岡商工会議所の合同葬で、11日午前11時広濟寺でとり行われましたが、当クラブの会員の皆さんも多勢の会葬者と共に、お別れのお焼香をされたようであります。遺族を代表して風間真一さんがご発病からお亡くなりになるまでのご病状についてお話をされましたが、肺ガンに侵されて2度の手術をされたようであります。風間慶三さんは、昭和47年6月27日に当クラブに入会されてこの方10年の間、ロータリー情報委員会、プログラム、会計、財団等多くの委員会に亘ってご活躍され、数多くの貢献をされたのであります。ご功績を偲び、ご冥福をお祈り申し上げて1分間の黙禱を致します。○この度新しく入会されました方々の委員会所属を次のようにお願い致しましたので、各委員長さんは早速手ほどきをされますようお願い致します。S.A.A.→佐々木喆彦君・加藤賢君・斎藤昭君・松田士郎君  
会報委員→小林敏夫君  
雑誌委員→福島三郎君
- 石黒ガバナーから只今いただいたニュース速報によりますと、国際ロータリー加入の第20,000番目のロータリークラブが誕生したようであります。

## 幹事報告

佐藤元伸君

1. 会報到着  
東京R.C. 藤沢R.C. 米沢R.C. 米沢西R.C.
2. 例会変更のお知らせ  
余目R.C.・立川R.C.例会日時・場所変更  
4月14日の例会を4月15日(金) P.M.  
P.M. 6:30  
余目町商工会館  
登録料 3,000円  
余目・立川合同例会の為
3. 「日本と中国」しんぶん到着

## 出席委員会

佐藤順治君

年間皆出席

23年間皆出席 鈴木善作君

20年間皆出席 石 黒 慶之助 君  
18 〃 佐 藤 忠 君  
1 〃 佐 藤 元 伸 君

3月100%出席

阿蘇君、阿部君、佐々木君、張君、藤川君、渡部君、飯白君、今野君、石井君、石川君、石黒君、板垣(俊)君、市川君、早坂(重)君、川村君、黒谷君、小池君、小松(広)君、三井(徹)君、三井(健)君、若生君、嶺岸君、迎田君、本山君、森田君、中江君、中野君、松田君、庄司君、高田君、斎藤(隆)君、工藤君、佐藤(昇)君、佐藤(忠)君、佐藤(順)君、佐藤(衛)君、佐藤(友)君、中田君、佐藤(元)君、新穂君、菅原君、鈴木(善)君、鈴木(弥)君、石塚君、小松(三)君、大森君、丹下君、手塚(林)治君、富樫君、内山君、山口君、吉野君、上野君

### ビ ジ タ ー

温海R.C. 菅原鉄三郎君

### 新 会 員 紹 介



氏 名 加藤 賢 (マサル)

昭和28年9月22日生

住 所 山王町10-54 寛明堂写真館

家 族 妻 典子

長女 彩子 (サイコ)

父 正雄

母 克子

学 歴 大阪芸術大学芸術学部写真学科卒

趣 味 野球・音楽鑑賞



氏 名 小林 敏夫 昭和9年10月19日生

住 所 鶴岡市日枝字海老島 276-8

電 話 0235-24-4602

勤務先 日本生命保険相互会社

役 職 荘内分室 分室担当支社長

家 族 妻 清子 昭和9年11月30日生

長男 徹 昭和35年2月19日生

次男 勝 昭和39年4月9日生

長女 純子 昭和42年12月14日生

趣 味 スポーツ (9人制バレーボール)

ゴルフ (幼稚園なみ)

前任地 仙台市 (日本生命仙台支社)



氏 名 福島 三郎 昭和20年4月7日生

住 所 鶴岡市鳥居町 5-12

電 話 0235-25-1311

勤務先 日本生命保険相互会社

役 職 鶴岡営業支部 推進部長

家 族 妻 宜子 昭和23年2月14日生

長男 健太郎 昭和47年9月10日生

長女 順子 昭和48年12月3日生

趣 味 旅行・ドライブ・歴史物読書

前任地 米沢市



氏 名 松田 士郎 昭和13年5月25日生

住 所 鶴岡市本町1丁目7-48

勤務先 ㈱トキワ屋 専務取締役

家 族 妻 一枝 昭和16年5月6日生

長女 香織 昭和42年7月6日生

次女 博美 昭和45年5月19日生

長男 一郎 昭和49年5月17日生

父 東一 大正4年4月15日生

母 松子 大正8年1月27日生

学 歴 鶴南卒 仙台電気通信学園卒

趣 味 軟式テニス・ゴルフ・囲碁・マーじゃん  
(今週の担当者 高田 耕助)

鶴岡ロータリークラブ創立 昭和34.6.9 承認 昭和34.6.27 253地区

事務局 鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内 電話 0235 (24) 7711

例会場 鶴岡市馬場町物産館 3階ホール 例会日 毎週火曜日 午後 12.30-1.30